



# こども家庭支援論⑦⑧

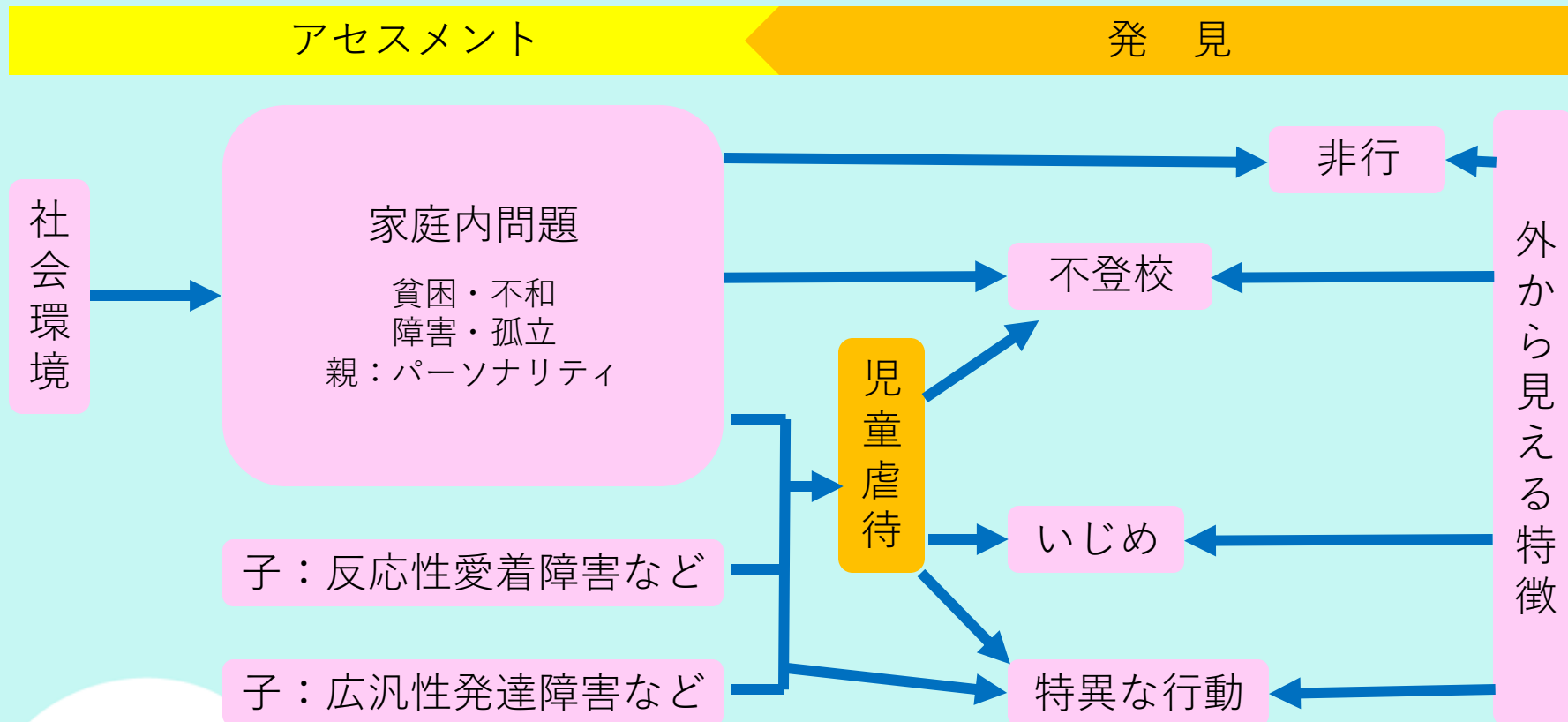
## 保育所における多職種連携と子育て支援



東北こども専門学院

担当：鑑さやか

# 発見からアセスメントへ



# 虐待が疑わしい場合のチェック項目

## 子どもの様子

- \* 不自然な傷が多い（顔や腕、足にあざが多くある）
- \* 夜遅くまで外で遊んでいたりと、子どもだけで夜を過ごしている
- \* 無断欠席が多い
- \* 身体、衣服が非常に不潔である
- \* 子どもの緊張が高い
- \* 体重、身長が著しく年齢不相応
- \* 年齢不相応な性的興味、関心、言動が強い
- \* 表情が無い、またはこわばったりおびえたりしている
- \* 親と視線をほとんど合わさない



# 虐待が疑わしい場合のチェック項目

## 保護者の様子

- \* 無断で欠席させることが多い
- \* 長期病欠なのに医者に見せていない
- \* 働く意志がない
- \* アルコールを飲んで暴れることが多い
- \* きちんと養育していない（食事をさせていないなど）
- \* 自分の思い通りにならないと体罰を加える
- \* 保育士、教師、相談員との面会を拒む
- \* 「死にたい」「殺したい」「心中したい」などと言う
- \* 近所の人との関わりを故意に避ける



# 虐待かな？と思ったら

- \* 虐待を発見した人は誰でも通告義務がある
- \* 虐待が本当に起きているのか確認する必要はない
- \* 虐待の現場を目撃していなくても構わない
- \* 通告者の秘密は守られる
- \* 匿名の通告でも構わない



# 子どもから虐待を打ち明けて きたときの対応



## (1)打ち明ける子どもが少ない理由

### ①虐待は年少児に多い

### ②子どもの心理

- \* 自己肯定感が低い
- \* 虐待の原因を自分に帰属させて考える
- \* 逃れようとする気力の喪失
- \* 虐待を受けていることに気付けなくなる
- \* 虐待者からの口止め
- \* 打ち明けることによる不安・恐れ



# 子どもから虐待を打ち明けて きたときの対応



(2)打ち明けてもらえる対象になる

①安全感を与える場所づくり

②信頼関係を作る



# 子どもから虐待を打ち明けて きたときの対応

## (3) 打ち明けてきた子どもへの対応

- ①子どもに感謝する姿勢をもつ
- ②傾聴と共感によって聴く
- ③「開かれた質問」を使う
- ④子どもの希望を確認する
- ⑤「必ず守る」と伝える
- ⑥安易に秘密を守ると約束しない
- ⑦得られた情報を検討する
- ⑧通告の準備をする
- ⑨話の内容を記録する





# 保護者へのかかわり

## (1) 虐待する保護者の特徴についての理解

- ①衝動型
- ②嗜癖型
- ③責任転嫁型
- ④確信犯型



# 保護者へのかかわり

## (2) 保護者と話すときの注意点

- ①虐待者と決めつけない
- ②子どもの問題に焦点を当てる
- ③一緒に解決を考えていく
- ④虐待の事実を引き出そうとしない
- ⑤保護者の言葉以外にも注目する
- ⑥話してくれたことに感謝する
- ⑦専門機関の援助について説明する
- ⑧専門機関に協力する立場にあることを説明する
- ⑨通告する



# 「虐待」を理解する

被虐待児の多く

情緒障害

PTSD 等さまざまな課題を抱える

↑ 被虐待児の抱える課題

適切な対応方法を理解しておく必要がある

例えば・・・感情のコントロールが難しい、ささいなことで激昂したり、  
落ち着き・集中力がない、性（性器）への異常な関心 等

被虐待児の特徴のひとつとして「試し行動」が挙げられる



# 試し行動とは

- ✓ あえて周囲の大人が怒るような行動をして、  
「どこまでやったら怒るか（どこまでなら怒られないか）」を  
確認している行為

試し行動の背景には

「自分は虐待されるもの（大人は虐待するもの）」という  
環境で生活してきた

↓施設に入所

新たな大人（施設職員）と関係を構築する過程で  
「この人も虐待するのではないか？」という警戒心

↓

無意識に相手を測る行為に出ていると考えられる



- ✓ 試し行動が出ると、  
表面的な事象に目を奪われ当惑することがある
- ✓ 試し行動を問題視するのではなく、  
「試し行動が出せるまでの関係は構築できた」  
と捉える
- ✓ 初対面や入所直後などの緊張関係から  
「この人は、もしかしたら安全かも」  
「どこまでなら安全か、試してみよう」  
という関係に一步前進したと捉える



# 「親（保護者）」を理解する

- ✓ 親（保護者）の抱える問題は、要養護理由に直結していることが多い
- ✓ 親の精神疾患、依存症、経済的貧困、望まない妊娠、  
子育て力の低さからくる養育困難やネグレクト、DV、孤立  
等多岐にわたる



施設職員は、

このような親の状況を適切に理解し、

場合によっては

必要な関係機関と連携をとらなければならない



✓ 子どもの施設入所にあたっては  
「保護者の同意」が必要だが、  
同意が得られない場合には、  
児童福祉法第28条の「審判入所」による  
強制的な措置となる

親と児童相談所の関係が一時的に悪化したり  
親が、子どもの入所する施設に子どもを強制的に引き取りに  
現れることもある

そのため・・・

子どもの施設入所に至る  
親の背景や生活状況などを正しく理解しておくことが、  
施設において子どもの安全を守り、  
養育する上でも必要不可欠となる



# 連携のための会議の基本的な考え方

## 点と線の連携

保育所  
幼稚園  
学 校

児童  
相談所

市区  
町村

子ども  
と家族

児童福  
祉施設

児童  
委員

病 院  
保健所

## 面の連携

保育所  
幼稚園  
学 校

児童  
相談所

市区  
町村

子ども  
と家族

児童福  
祉施設

児童  
委員

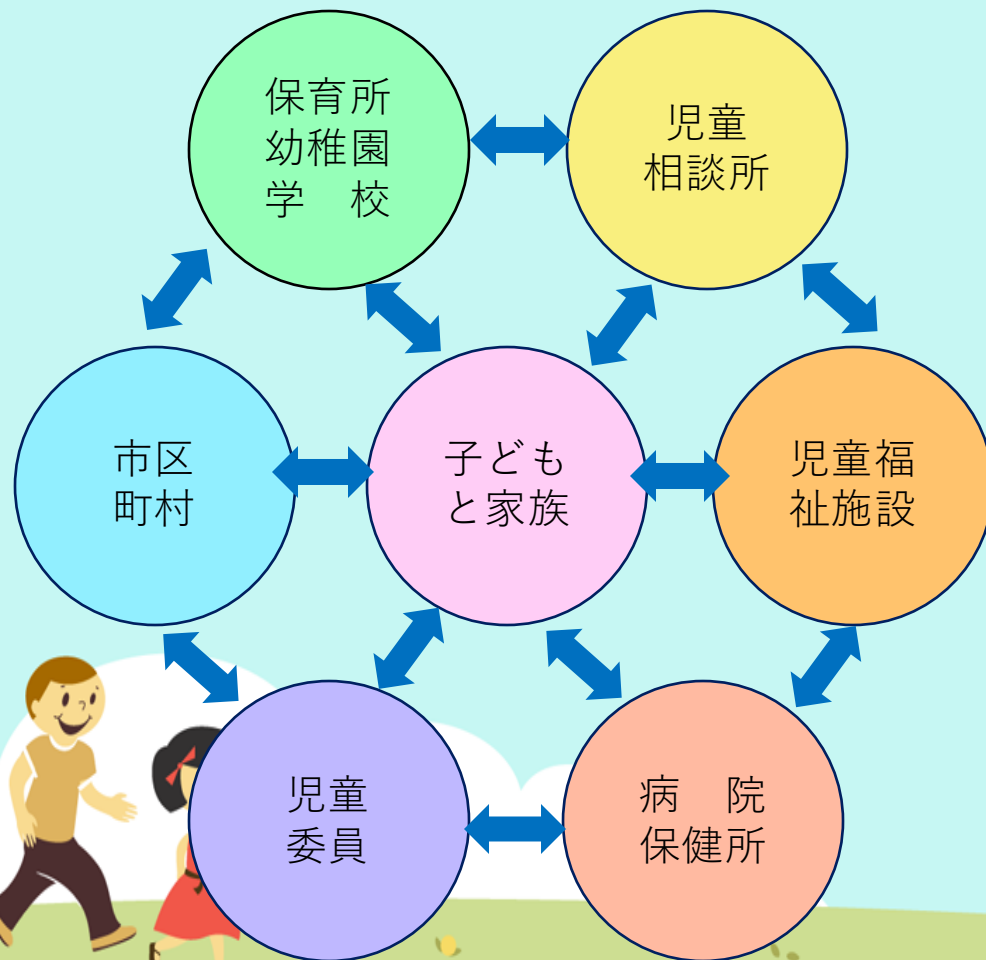
病 院  
保健所



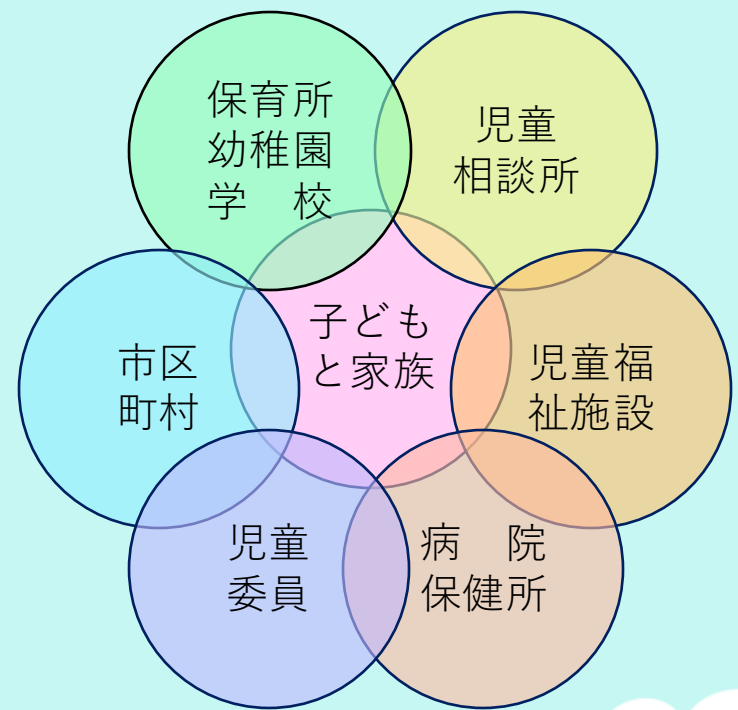


# 連携のための会議の基本的な考え方

## 点と線の連携



## 面の連携



# 連携を成功させるための留意点

## (1)基本

- \* 子どもと家族を支援するという視点を確認する
- \* 支援する家庭にかかわっている担当者を支援する視点を確認する

## (2)相互理解のための努力

- \* 各機関とも限界があることを前提にする  
各機関とも仕事にゆとりがないことを理解し、  
カバーし合うことを前提にする
- \* わかりやすい情報伝達  
自分の所属している組織の情報を的確に伝える
- \* 共通認識をもつための努力  
専門分野が違くと「考え方の違い」「時間の感覚の違い」  
「用語の違い」などがあることを念頭において話を聞く
- \* 連絡をとり合う



# 連携を成功させるための留意点

## (3) 具体的対応策への努力

- \* 役割分担をする

  - 具体的な役割を決める

- \* 次回の会議の時期を具体的に決める

  - そのときまでの各機関の行動の目標をはっきりさせておく

- \* 長期化することも視野に入れる

- \* 日常的な交流を行う



# 関係機関との連携の必要性

- ①情報を集中することで手がかりを見つけるなどの効果がある
- ②機関がかかわることで、問題の背景など見えないところが見えてくる
- ③事態の認識を客観的に判断できる
- ④関係機関の役割が明確になり、切れ目のない支援につながる



# 関係者会議の内容例

- ①関係者会議では、保育所が開催を依頼した趣旨を報告する
- ②保護者の状況と園の対応、困難な課題などについて報告する
- ③関係機関が把握している情報を開示してもらう
- ④各関係機関ができることについて具体的に議論する
- ⑤議論の中で不明なことが出たら、その内容についての専門機関  
（例：経験の多い医療関係、保健センターなど）に意見を求める
- ⑥今後の具体的な対応、支援の方針を明確にする
- ⑦方針（計画）がうまく進まない時は速やかに見直す

※会議内容については守秘義務が課せられる



# 一休みしましょう

## 事例の経緯

- \* 保健師より心身症をわずらう母親の支援を依頼され、A児は保育所に入所した。
- \* A児は重度の自閉症児で、母親への対応も配慮が必要な状態であった。
- \* その後母親は良い状態となった時期もあったが、父親の入院をきっかけに、母親は引きこもりの状態となり、父親の育児負担が多くなった。さらに父親が失職し、
- \* 一家は破綻しかねない様子であった



## 対応の経過と結果

- \* 保育所への送り迎えが母親から父親に代わり、父親が悩んでいる様子が見られた。まずは父親から相談を受ける体制を作るため、保健師からの電話や訪問数を増やすなどした
- \* 母親には受診やカウンセリングを勧めるが拒否された。連絡帳から母親が周囲（社会全体）に対して、心を閉ざそうとしていることを察し、保育所だけでの対応に限界を感じて児童相談所に相談した。
- \* 児童相談所の見解は、母親は若い頃からの心身症であり、適切な治療を受けることが望ましいが、家の中にこもっていることで本人が安心しているようなので、父親への負担は、他の施設の利用で軽減を図り、しばらく様子を見ることとなった



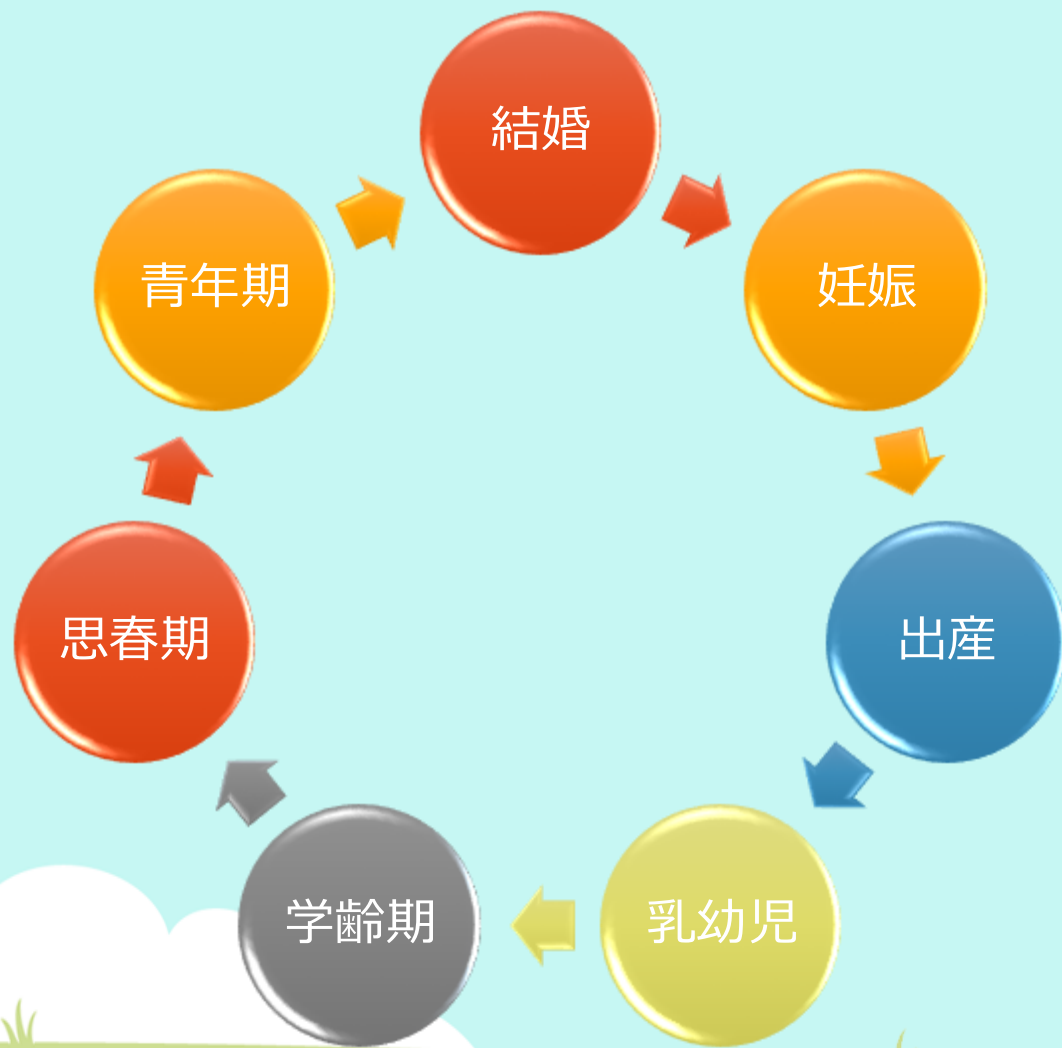
## 事例の考察

- \* 心身症をわずらう母親は、何気ない言葉に傷つくなど対応が難しく、一生懸命働きかけていたことが逆に母親には重荷となっていたようであった
- \* 担任保育士に負担が負担が集中しやすいため、担任のストレスを軽減するためにも早いうちに専門機関に相談できたことは良かった
- \* 精神科医のアドバイスを受けることで、対応にゆとりを持つことができた





# きれめのない見守りと支援を



# ずっと子どもと家族に寄りそうために

\* 近年、児童福祉施設職員のバーンアウトが増えている

\* バーンアウトの原因

客観的な数値評価がない

これだけやったからこれだけ返ってくるという具体的な結果がほとんどない

支援の結果が実際に目に見える形ではなかなか出でこない

支援しても良い方向へいかない、問題行動が増えてしまった



「子ども（や保護者）のためにこれだけやっているのに・・・」



今までやってきたことに意味を感じなくなり、無力感を感じる

期待する報酬（子どもの精神的な成長・感謝の気持ち・賞賛など）が十分に得られないとき

バーンアウト



# ずっと子どもと家族に寄りそうために

＊バーンアウトになりやすい人

真面目な人、責任感の強い人、理想の高い人、  
仕事に対する思い入れの強い人、頑張り屋さん、  
ストレスの発散が不器用な人 など



# バーンアウトしない環境を作しましょう

- \* ひとりで対応しない
- \* 職場内でチームをつくり組織として対応する
- \* チームの中で話しやすい場や雰囲気をつくる
- \* 他機関・他職種とネットワークをつくる
- \* 他機関・他職種の役割、機能を理解する
- \* スーパービジョンの場をつくる

